

<～いつ話す？どう話す？～ お家ではじめる幼児期からの「性」のお話>

にご助産院院長の岡崎智津美さんをお迎えして、「幼児期からの家庭での性教育」をテーマにオンラインセミナーを開催いたしました。

まず、幼児期・学童前期の性教育のポイントとして、以下の5点が挙げられました。

- ① 一方的な情報提供ではなく、子どもが何を知りたがっているのかが重要。
- ② 誤魔化したりせずに、共に学ぶ姿勢で正しい知識を与える。（絵本や本を使うとよい。）
- ③ 子どもの成長、発達段階に応じて行う。
- ④ 子どもが相談できる関係づくりが大切。
- ⑤ ゴールは子どもが自分を大切に思う気持ち（自尊感情）をしっかり育てること。
⇒「自尊感情」が思春期での「性」に関わることへの自己決定力に繋がる。

また、自分のからだを大切にするには、プライベートゾーン（口、胸、性器）の名前を覚えたり、性器を自分で洗うトレーニングすることが有効であること。

さらに、性被害からからだを守るために子どもに伝えたいこととして、「イヤと意思表示できる力」や「どんなことをされたのかを大人に話す力」を育てるのが大切であることを、関連書籍の内容の紹介や自身のご家庭での体験を挟みながら、具体的な表現で解りやすく説明していただきました。

参加者からは、「とても丁寧にわかりやすくまとめられており、大変勉強になった。」「具体的にどのような形で子どもに伝えていけばいいのか、ヒントを得られてよかった。」「このような話を通じて子どもの自己肯定感も高まるのではないかと思った。」などの感想が寄せられました。